

「地域課題分野」(平成26年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
排砂バイパストンネルおよび下流河道における土砂動態把握手法の高度化（研究期間：H26年～H28年）	京都大学 角 哲也	A
<研究概要> <p>ダムの堆砂対策のうち、排砂バイパストンネルは日本とスイスがリードする最先端技術であるものの、トンネル内部の土砂動態の把握、特に、長期的な維持管理に直結するトンネルインバートの摩耗対策を進めるためのトンネル内部の水理特性と土砂輸送機構の解明が必須である。 そこで本課題では「プレートマイクロフォン」や「IC タグ」などの土砂モニタリング技術の開発を行い、現在建設中の天竜川小渋ダムに導入して検証を行った。</p>		
<事後評価コメント> <p>トンネル内部の土砂動態をプレートマイクロフォンによってモニタリングする技術が現場実装されており、研究目的は達成され、十分な研究成果があった。 今後、上下流河道の実測データを用いた土砂収支の検証や、粒径分布別の計測精度の検証等、さらなる研究の進展が期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い